

【瀬戸市】 校務DX計画

1. 校務系・学習系ネットワークの統合

教職員の個々の事情に合わせた柔軟な働き方を可能とするため、ゼロトラストの考え方に基づくアクセス制御によるセキュリティ対策を十分に講じた上で、学校や関係業者と連携を図りながら、ロケーションフリーで校務系・学習系ネットワークへ接続可能な環境の整備（教職員用端末の1台化を含む）に向けた調査研究を着実に進める。

2. 校務支援システムのクラウド化

現在、校務支援システムについては、オンプレミスで運用しており、学校現場において教務・保健・学籍・成績管理など様々な校務で利用している。

保護者連絡ツールや本市で導入している学習用ICTソフトと連携し、教職員間での会議資料等のペーパーレス化、教職員等の負担軽減・コミュニケーションの迅速化や活性化を可能とする環境を構築するため、文部科学省「次世代の校務デジタル化推進実証事業」の状況を注視しつつ、教職員と学校現場における課題・ニーズ等の情報共有を図るなど、次世代の校務デジタル化に向けた校務系ネットワーク・システム等の現状分析や望ましい校務の在り方に関する検討を行い、パブリッククラウド上での運用を前提とした校務支援システムの早期クラウド化を目指す。

3. データ連携基盤の創出

校務の効率化や児童生徒への個別最適な支援を図るため、授業支援ソフトやデジタルドリルで蓄積された学習系データ、児童生徒の出欠及び成績情報等の校務系データなど、様々な教育データを収集・分析・可視化するためのデータ連携基盤（教育ダッシュボード）の導入に向けた検討を行う。

4. FAX・押印の原則廃止

令和5年12月に文部科学省が公表した「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検結果の報告において、クラウド環境を活用した校務DXを大きく阻害していることが指摘されていることから、災害や教育ネットワークの不具合等における有事の際や、FAXを利用する方が明らかに効率的な場合を除き、FAX・押印の原則廃止に向けて、各種関係機関及び学校と関わりのある事業者に対して教育委員会から慣行の見直しを依頼するなど、継続的に働きかけを行う